

「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」の意見募集の結果について

◆処理区分

A	意見を踏まえ、案等の修正等を行うもの	0 件
B	意見を踏まえ、その趣旨を今後の施策に反映させていくもの	0 件
C	意見の趣旨が既に案等に盛り込まれているもの	2 件
D	意見に対する市の考え方を説明し、ご理解いただくもの	3 件

意見の概要		処理区分	意見に対する市の考え方
1	<p>1. 地域での乳幼児の預かり保育サービスの維持拡大</p> <p>両親とも仕事や家事に追われる中で子どもを育てるのは限界があり、子どもにかかりきりになるとストレスが溜まり、また思い詰めてしまうこともある。その中で、子どもを一時的に預かっていただけるファミサポ等の保育サービスを利用したことで、自分の時間を確保でき、また新鮮な気持ちで子どもに向き合うことができた。こういったサービスを今後も継続していただきたい。</p>	D	<p>子育てに負担や不安を抱える親が増加している現状において、市では、地域住民やNPO、学校、事業所など、多様な世代や関係機関・団体等が子育てに関わりながら、安心して妊娠・出産・子育てができる環境整備に努めているところです。</p> <p>引き続き、保育所・認定子ども園やファミリー・サポート・センター等での一時預かり事業の充実に努めてまいります。</p>
2	<p>2. 幼稚園・保育園の定員拡大</p> <p>幼稚園の募集の際、定員に限りがあるということで不安な思いを抱いた。結果的に希望の幼稚園に入ることができたが、今後幼稚園・保育園に入れたいという親の為にも定員の拡大をお願いしたい。その為にも、教員・保育士の方々の給与増等、待遇改善に力を入れていただきたい。</p>	D	<p>人口減少が進行する中においても、依然、保育ニーズは高い状態が続いておりますが、保育士不足により園児を定員まで受け入れることができない事態も発生しております。</p> <p>保育士不足の課題に対応するため、市では新規就業をバックアップするための奨励金制度や家賃補助事業、さらには保育士や保育教諭の処遇改善事業などに取り組んでいるところであり、引き続き、保育士確保に向けた就業促進や離職防止に取り組んでまいります。</p>

3	<p>子供たちの教育にはアナログも大切にしたい</p> <p>紙の本、紙の教科書を第一に、タブレット端末などはあくまでも不便を補うためや、将来デジタルにすんなり馴染めるための練習として使用するにとどめてほしい。あまりデジタルばかりだと成長期に目も悪くなるのではないかと心配です。ただ、デジタルツールなどの便利なものは、先生方の負担を減らし、先生方が本来の仕事により集中できるようにするためには大いに使ってほしいと思います。</p>	C	<p>乳幼児期には、直接的、具体的な体験が得られる生活が重要とされており、本ビジョンにおいても「こどもの体験が豊かになるよう、舞鶴の海、山、川等の自然に触れる体験」をしたり、土、砂、水、草花などの自然に触れたり、「五感(視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚)を通じて、直接的な体験」をしたりすることが重要であると示しております。</p> <p>また、乳幼児教育における ICT の活用については、こどもに対する「使い方や影響について注視していく必要」があると示しており、特に推奨しているものではなく、必要に応じて活用していくと捉えております。</p>
4	<p>乳幼児は、身近な疑問から始まる学びを大事にしてほしい</p> <p>乳幼児のうちは、机で本を読んでする学習よりも、こうした日常の中からうまれる疑問を大切にもらって、先生やほかの子供たちといっしょに「なんでかな?」「じつはこれは〇〇だからなんだよ」という風に、日常にあふれる不思議と一緒に考えていくような学びをしてほしい。そして「わからなかったことがわかったよろこび」のようなものを育ててほしい。そうしたことが、その後小学校、中学校、高校と進んでいく上での土台になると思う。</p>	C	<p>乳幼児期は、遊びや体験を通じて学んでいます。本ビジョンにおいても、遊びや体験の中で、こどもは、様々なものを見たり、触れたりして感じることで気付いたり、発見したりしています。そして、気付きや発見から、「なぜだろう」と不思議に感じたり、「知りたい」と好奇心をふくらませ調べたり、予測したり、試したり、工夫したりして、夢中になっていきます。そして、何よりも「楽しい」「おもしろい」「やってみたい」と様々なものに興味・関心をもち、自ら環境等に関わり、充実感や達成感が得られることが重要であると示しています。</p> <p>まさに、生涯における学びの土台となる時期が乳幼児期と言えます。こどもに関わるすべての方に、乳幼児期の学びについて共通認識していただけるよう、周知に努めてまいります。</p>
5	<p>森林の管理をちゃんとして、熊の生息域を整え、人里に降りてこないように対策をお願いしたい。</p>	D	<p>熊を人里に寄せ付けないよう、生息域を明確にすることは重要と考えており、その対策として、林業事業体が行う森林整備や、地域団体が行う里山の整備・保全活動を支援する施策に取り組むほか、熊の餌となる柿の木などの放置果樹を伐採する際の経費を支援する事業も実施しており、今後も制度の周知に努めてまいります。</p>